

(様式第1号)

市民との意見交換会実施報告書

開催日時	令和2年11月17日(火) 14時 分 ~ 15時 40分			開催場所	鶴岡市役所・議会委員会室	
出席議員	氏名	役割	氏名	役割	氏名	役割
	石井 清則	座長	草島 進一	撮影	佐藤 博幸	
	阿部 寛	司会	尾形 昌彦	受付		
	菅井 巖	記録・録音	野村 廣登			
欠席議員	なし					
テーマ	ごみの出し方・減らし方について ①ごみ分別の周知 ②ごみ減量の取組 ③違反ごみ 他					
団体等の名称	市内在住 鶴岡市廃棄物減量等推進員の方々 (旧鶴岡3名、旧各町村各1名)				参加者数	7人
実施内容 (概要等)	出席者の自己紹介の後、テーマに沿って意見交換を行う。一通り、出席された廃棄物減量等推進委員の方々、それぞれの地域でのごみの分別や周知などについて発言をいただき、ごみ減量にむけた意見、ごみステーションでの「違反ごみ」への対処や意見などを伺う。 出席議員からは、行政が行うごみ分別の講習会や指導の取組状況や、分別を周知する分別表やカレンダーの認識、有料化などへの認識についての問いかけがあったが、全体として出席者からの意見に対する議員からの回答というよりも、地域ごとの取組実態の経験や教訓を伺い、参考となる意見や指摘もあり、今後の委員会での問題意識を共有する有意義なものとなった。					

※主な意見及びその回答は、別紙のとおり

令和2年12月14日

鶴岡市議会議長 様

市民文教班 代表者 石井 清則 印

主な意見等	回 答 等	分 類			
		I	II	III	その他（理由を記載）
8月26日に開催された市廃棄物減量等推進委員で、ごみ処理に関して、「三川町の住民の方とも一緒に意見交換できれば良いのでは」と提案している。			○		
違反ごみ(意図的な)としてとらえるのではなく、分別の勘違いとしてとらえ、行政における周知の在り方について、再認識が必要ではないか。			○		
資源ごみの回収、特に雑紙の分別・回収に課題がある。子ども育成会での回収をやめた地域では、月一回のステーション回収を実施している。榊引や朝日では指定日時での庁舎での回収をやっているが、取組が不十分と思われる。				○	地域での資源回収の取組や、雑紙回収の在り方など研究・提言が必要と認識。
ごみの分別表やカレンダーについて、広報等との一緒に配布で、見逃している人もいる。再配布や年一回の発行が必要ではないか。			○		
市のごみ減量目標、違反ごみ発生・状況データ・数値化して取組の成果や・改善点、課題など、エコ通信・市広報等、市民へ周知、目に見えるようにしてほしい。			○		
ごみの減量の提案。食べ残し、残渣の堆肥化。外食産業での取組、家庭での段ボール等での堆肥化。燃えるゴミ減量化で循環型になる。 農家は生ごみ出ないが、街中はできない、乾燥化や粉碎して下水道へ流すのもあると聞く。堆肥化、資源化など機器導入の支援もあるのでは。				○	過去に市が行っていた家庭用生ごみ処理機補助事業の検証、なども含め研究・提言が必要と認識。

<p>人口減少する中で、ゴミが増えるのはなぜか。ゴミが増えるから有料化が市の狙いなのではと感じる。人口減少で運営費が困難なら理解もできるが、「人が減るのに、ゴミが増える」ということが理解できない。</p>	<p>廃棄物対策課からは、「人口は減っているが、世帯数が減らない」ことから、ごみ減量が進まないとの話がある。ごみ減量は課題であり、燃やすごみでの生ごみの脱水処理など、知恵を出す必要がある。</p>		○		
<p>議会公報でごみリサイクル率が 12%ぐらいと知ったが、残り 88%がどこに行っているのか、何を基準に 12%なのか、上げるにはどうしたらいいのか。</p>	<p>市のリサイクル率は、あくまでも市が回収したもので算定。スーパーなど民間が取組むものは算定されていない。そこが入れば若干違ってくるのかとは思いますが、全国的に見ても市のリサイクル率は低いと思う。</p>		○		
<p>ゴミの減量、状況、可燃ごみ量、リサイクル率などの推移、データ、グラフで、市民に分かりやすいように伝えるべき。そうした取り組みで、市民が関心を示し刺激になれば少しは良くなると思う。</p>			○		
<p>ゴミステーションへの出し方で、名前や番号記載もあるが、市内では、なかなか無理。別の地域では「違反ごみ」が多いことから、名前と電話番号との声も上がっている。</p> <p>地域の違いもあるので、「名前」「番号」等それぞれで決めることを提案しては。「ごみ減量の危機感を示すうえでも」廃棄物対策課が方針として出すとか必要があるのでは。</p> <p>別の地域では、以前は名前を記載していたが、住民の「プライバシー」の問題が指摘され、やめた。それ以来、逆に「違反してはダメ」との意識は高まった気がする。</p>			○		

<p>「ごみの有料化」については、新しい焼却施設の可燃ごみの焼却経費・維持費・管理費の関係で「有料化」の説明が理解できればあり得ると考える。</p> <p>住民のお金に対する考えは厳しいものがある。年金暮らし、一人暮らしなど暮らしが大変で、有料化はどうかと思う。</p> <p>現状でも税金で、市民は負担している。有料化で心配されるのが、不法投棄・違反ごみの発生。現状を維持してほしい。</p> <p>有料化の話になると、燃えるごみなど分別を考え直さなければと思う。有料になってほしくない。</p> <p>有料化で量目測定、納付書発行など自治会等での負担が考えられる。目的税として世帯均等負担化か。ゴミの量での有料化は非現実的。</p> <p>行政は有料化のやり方をどのように考えているのか</p>	<p>市としては有料化については議論していない。他の自治体で見れば、ごみ袋1枚当たりの負担増が「有料」という考えが多いと思う。</p> <p>現在のごみ袋の値段は、(袋製造)原価とも聞く。</p>	○			
---	--	---	--	--	--

分類Ⅰ：今後の市議会活動の参考意見とするもの 分類Ⅱ：執行機関に伝えるもの 分類Ⅲ：議会（常任委員会、特別委員会、議会運営委員会、広報広聴委員会等）として調査・検討を行い、その対応を明らかにするもの その他：分類Ⅰ～Ⅲ以外のもの（その理由を記載すること）